

レディーミクストコンクリート配合計画書

2023 年 4 月 1 日

広島県生コンクリート工業組合

殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	HP 掲載用2023
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	3月下旬～7月上旬 9月中旬～12月中旬 標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スラップ 又はスラップ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の下限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	又は目標値の上限	kg/m ³
	空気量	4.5 %	流動化後のスラップ 増大量	cm

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %	
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %	

骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	2.5	2.74		2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	碎石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	碎石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	碎石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	15～ 5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5

混和剤①	製品名	マスターブリード15L	種 類	AE減水剤	Na ₂ Oeq %	0.02
混和剤②	製品名		種 類		Na ₂ Oeq %	
混和剤③	製品名		種 類		Na ₂ Oeq %	

細骨材の塩化物量 ①	水の区分	上水道・上澄水	目標スラップ 固形分率	%
------------	------	---------	-------------	---

回収骨材の使用法	細骨材	粗骨材	安定化スラッジ水の使用の有・無
----------	-----	-----	-----------------

配 合 表 (kg/m ³)													
セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
262			153	810			422	369	262	2.88			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			43.9 %
粗骨材混合比(容積) 碎石4020A:碎石2010A:碎石1505A=40:35:25													

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の規格区分：J I S 該当品各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中を超えたとき又は下回ったとき。
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号 普通	呼び強度 24	スランプ又はスランプフォー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類 による記号 BB	
指定事項 (必須) (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB	
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³	
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低	°C
				水セメント比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³	
	塩化物含有量	0.30	kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の下限	kg/m ³	
	呼び強度を保证する材齢	28	日	又は目標値の上限		
空気量	4.5	%	流動化後のスランプ増大量	cm		

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。
 $\alpha = 1.22$
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 153(kg/m³)

単位セメント量(C)
 $C = W \div W/C \times 100 = 153 \div 58.5 \times 100 = 262(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 262 \div 3.04 = 86(\text{ℓ}/m^3)$
 C = 262(kg/m³)
 Vc = 86(ℓ/m³)

粗骨材かさ容積(ℓ/m³) 当社社内規格値より V = 665(ℓ/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(\text{ℓ}/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(\text{ℓ}/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(\text{ℓ}/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(\text{ℓ}/m^3)$
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 Vg = 402(ℓ/m³)
 Vg1 = 161(ℓ/m³)
 Vg2 = 141(ℓ/m³)
 Vg3 = 100(ℓ/m³)
 G1 = 422(kg/m³)
 G2 = 369(kg/m³)
 G3 = 262(kg/m³)

単位細骨材量(S)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (153 + 86 + 402 + 45) = 314(\text{ℓ}/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 314 \times 2.58 = 810(kg/m^3)$
 Vs = 314(ℓ/m³)
 S = 810(kg/m³)

細骨材率(s/a)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 314 \div (314 + 402) \times 100 = 43.9(\%)$
 s/a = 43.9(%)

単位混和剤量(Ad)
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 262 \times 1.100 \div 100 = 2.88(kg/m^3)$
 Ad1 = 2.88(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③		
262			153	810			422	369	262	2.88				
水セメント比			58.5	%	水結合材比			%			細骨材率		43.9	%

レディーミクストコンクリート配合計画書

2023年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	H P 掲載用2023
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	6月上旬～10月中旬 夏期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリ反応抑制対策の方法	B B
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の下限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	又は目標値の上限	kg/m ³
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ 増大量	cm

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O _{eq} %	
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ O _{eq} %	
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ O _{eq} %	

骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	2.5	2.74		2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	15～5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5

混和剤①	製品名	マスターブリード15L	種類	AE減水剤	Na ₂ O _{eq} %	0.02
混和剤②	製品名		種類		Na ₂ O _{eq} %	
混和剤③	製品名		種類		Na ₂ O _{eq} %	

細骨材の塩化物量 ①	水の区分	上水道・上澄水	目標スラッジ 固形分率	%
------------	------	---------	-------------	---

回収骨材の使用法	細骨材	粗骨材	安定化スラッジ水の使用の有・無
----------	-----	-----	-----------------

配 合 表 (kg/m³)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
267			156	797			422	369	262	2.94			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			43.5 %

粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中を超えたとき又は下回ったとき。骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。

規格区分：J I S 該当品

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号 普通	呼び強度 24	スラング又はスラングフォー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類 による記号 BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m ³ 以下	単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	呼び強度を保證する材齢	28	日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	空気量	4.5	%	流動化後のスラング増大量	cm

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。
 $\alpha = 1.22$
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 156(kg/m³)

単位セメント量(C)
 $C = W \div W/C \times 100 = 156 \div 58.5 \times 100 = 267(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 267 \div 3.04 = 88(\text{L}/m^3)$
 C = 267(kg/m³)
 Vc = 88(L/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社社内規格値より V = 665(L/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(\text{L}/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(\text{L}/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(\text{L}/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(\text{L}/m^3)$
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 Vg = 402(L/m³)
 Vg1 = 161(L/m³)
 Vg2 = 141(L/m³)
 Vg3 = 100(L/m³)
 G1 = 422(kg/m³)
 G2 = 369(kg/m³)
 G3 = 262(kg/m³)

単位細骨材量(S)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (156 + 88 + 402 + 45) = 309(\text{L}/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 309 \times 2.58 = 797(kg/m^3)$
 Vs = 309(L/m³)
 S = 797(kg/m³)

細骨材率(s/a)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 309 \div (309 + 402) \times 100 = 43.5(\%)$
 s/a = 43.5(%)

単位混和剤量(Ad)
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 267 \times 1.100 \div 100 = 2.94(kg/m^3)$
 Ad1 = 2.94(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③					
267			156	797			422	369	262	2.94							
水セメント比			58.5	%			水結合材比			%			細骨材率		43.5	%	

レディーミクストコンクリート配合計画書

2023年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合

殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	HP掲載用2023
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	11月中旬～4月下旬 冬期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低
				水セメント比の目標値の上限	60
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		又は目標値の上限	kg/m ³
空気量	4.5 %		流動化後のスランプ 増大量	cm	

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %			
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %			
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %			
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	2.5	2.74		2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	15～5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5
混和剤①		マスターリード 15L		種類			AE減水剤		Na ₂ Oeq %	0.02
混和剤②	製品名									
混和剤③										

細骨材の塩化物量①	水の区分	水道・上澄水	目標スラッジ固形分率	%
-----------	------	--------	------------	---

回収骨材の使用法	細骨材	粗骨材	安定化スラッジ水の使用の有・無
----------	-----	-----	-----------------

配 合 表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
256			150	823			422	369	262	2.82		

水セメント比	58.5 %	水結合材比	%	細骨材率	44.2 %
--------	--------	-------	---	------	--------

粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中
 超えたとき又は下回ったとき。
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

規格区分：JIS該当品

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スラブ [°] 又はスラブ [°] フー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m ³ 以下	単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28	日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	空気量	4.5	%	流動化後のスラブ [°] 増大量	cm

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。
 $\alpha = 1.22$
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 150(kg/m³)

単位セメント量(C)
 $C = W \div W/C \times 100 = 150 \div 58.5 \times 100 = 256(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 256 \div 3.04 = 84(Q/m^3)$
 C = 256(kg/m³)
 Vc = 84(Q/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社社内規格値より V = 665(Q/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(Q/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(Q/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(Q/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(Q/m^3)$
 $G1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 Vg = 402(Q/m³)
 Vg1 = 161(Q/m³)
 Vg2 = 141(Q/m³)
 Vg3 = 100(Q/m³)
 G1 = 422(kg/m³)
 G2 = 369(kg/m³)
 G3 = 262(kg/m³)

単位細骨材量(S)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (150 + 84 + 402 + 45) = 319(Q/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 319 \times 2.58 = 823(kg/m^3)$
 Vs = 319(Q/m³)
 S = 823(kg/m³)

細骨材率(s/a)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 319 \div (319 + 402) \times 100 = 44.2(\%)$
 s/a = 44.2(%)

単位混和剤量(Ad)
 $Ad1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 256 \times 1.100 \div 100 = 2.82(kg/m^3)$
 Ad1 = 2.82(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③		
256			150	823			422	369	262	2.82				
水セメント比			58.5	%	水結合材比						%	細骨材率	44.2	%